

GOOD LIVING HEADLINE

ビジネス
ユーザーの皆様へ

12
2019

商品のトレンドや新しい制度などお役に立つ情報を、日頃お引き立ていただいているビジネスユーザーの皆様へ発信します。

自然災害に備えるには？

知っておきたい 保険の基本

台風、水害…日本の自然災害リスクは地震だけにとどまらず、年々大きくなっています。

こうした中、自然災害への備えとして「保険」への関心が高まっていますが、意外にわからないことが多いのが実情。保険の種類や補償の内容などの基本を知っておきましょう。



災害保険の種類と補償内容

火災保険

一般的な火災保険は、火事による損害だけでなく自然災害も補償の対象となります。ただし「住宅火災保険」では水災の補償がないため、水害に備えるには「住宅総合保険」への加入が安心です。

<一般的な住宅火災保険の補償対象>



※地震による火災は補償の対象外です。

地震保険

地震保険は単体での加入はできず、火災保険とセットで加入する必要があります。地震保険は法律に基づき、政府と保険会社が共同で運営しているため、保険料も補償も一律です。

<地震保険の補償対象>

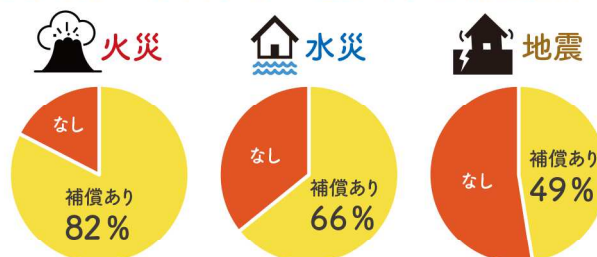


建物と家財

火災保険で建物のみを補償の対象としている場合、家財は補償されません。家財を保険対象にすると建物に収容されている「動産」の損害が補償されますが、明記物件と呼ばれる30万円を超える貴金属や美術品などは、申込時に保険会社へ申告しなければ補償されないか、補償内容を制限されてしまいます。



火災補償に比べまだまだ低い 水災・地震補償の保険加入率



2015年度の資料を元に内閣府が試算

補償内容や限度額は保険会社により異なるため、あらかじめ確認しておくことが大切です。最近では、自然災害を細分化し、必要な補償を選べる保険も出てきています。

裏面に続きます▶

DATA 全壊からの住宅再建には、保険の補償が不可欠。

東日本大震災で全壊被害にあった住宅の新築費用の平均は約2,500万円で、それに対し公的支援で受給できたのは、善意による義援金をあわせても約400万円にとどまりました。

今後発生が危惧されている南海トラフ巨大地震では、全壊住宅が約238.6万棟、東日本大震災の約20倍になると推定されています。

災害後の生活の再建には、保険など「自助」による備えが重要です。

< 東日本大震災の住宅再建費用例 >

住宅新築費用
約2,500万円

不足する金額
約2,100万円

+

公的支援金
約400万円
(義援金
約100万円含む)

さらに
・家財・引越し
などの費用がかかります。



内閣府・平成29年4月発行「水害・地震から我が家を守る保険・共済加入のすすめ」より

軟水シャワーつき システムバスルーム **フェリテプラス・フェリテ** **好評販売中!**

“水”の始まりから出口までこだわって、バスルーム全体をキレイに!お肌も髪もキレイに!

ハウステックのシステムバス「フェリテプラス・フェリテ」は、軟水シャワーを標準装備。肌荒れだけでなく、浴室の汚れやカビの原因となる石けんカスの発生を抑えます。快適なバスタイムをつくる「フェリテプラス・フェリテ」。ぜひショールームをご覧ください。



快適バスタイムの秘密①
水道水を硬度ゼロの軟水*1に
「クリン軟水シャワー」

軟水シャワーつき
バスは
ハウステックだけ!



クリン軟水で汚れやカビ、
肌荒れの原因
「石けんカス」を抑える!

*1 硬度ゼロの軟水とは、硬度20mg/lの水を表します。

快適バスタイムの秘密②
「クリンかるわざカウンター」



かるがる外せてまる洗い。
トレーとしても
使えるカウンター。

快適バスタイムの秘密③
「除菌楽すてヘアキャッチャー」



銅イオンの強い除菌力で
排水口の嫌な
ヌメリと臭いを抑える!

編集後記

2019年秋の度重なる台風・豪雨による被害を目の当たりにして、人ごとではないと思った方も多いでしょう。心身ともに抛りどころとなる自宅は一刻も早い再建が必要ですが、現実的には費用の工面が壁となっています。気候変動の影響でますます自然災害リスクが高まる中、やはり「災害に備える保険」への加入は必須。こうした時代に則した、新たな災害保険商品も登場するようなので、積極的な情報収集に努めたいですね。